

森垣龜一郎氏の急逝を惜む

神戸市土木部長從四位勳三等工學博士森垣龜一郎氏は、昭和九年一月二十三日午後五時市廳舎參事室に於て、九年度豫算査定中、突如腹痛を訴へたので、直ちに同市山手病院に收容手當を加へたが、同夜九時、腦出血の爲遂に逝去された。享年六十一歳であつた。

『死を以て事に當る』と云ふ堅き信念を常に抱かされてゐた博士の最期として、若し表現が許されるなら、まことにふさはしき臨終であつたと云ふべきである。六十一歳と云へば未だ人生の盛りではあるが、而してまた遺された人々、遺された事業にとりては限りなき悲しみに違ひないけれども、日常一意専心仕事に熱中され何物をも顧みない感があり、神戸港の完成其他事業に献身された博士にありては恐らく戰場にたふれし軍人と同様、地下に満足せられて居ることであらう。

博士は明治七年三月二十二日、兵庫縣城崎郡豐岡町に生れた。明治卅一年七月東大工科土木學科を卒業、八月大阪築港事務所技師に任ぜられ、卅九年四月大藏省臨時建築部技師となり、四十年七月歐米に出張を命ぜられ、翌年二月歸朝された。大正二年六月大藏技師となつて臨時建築部神戸出張所勤務となり、同八年四月内務技師に兼任、其年の十二月論文を提出して工學博士となられた。大正十二年六月、港灣部長、都市計畫部技師長として

神戸市に聘せられ、十三年には再度の歐米視察を遂げられて昭和六年土木部長となり今日に至つたものである。

博士の功績は此限られた紙面に盡すべくもないが、港灣關係では博士の案による神戸港



第一期修築工事には献身的努力をされ、又外國貿易設備の完成にも努められた。大正十二年神戸市に聘せられてからは同港内外貿易設備の擴充殊に内國貿易用陸上設備に就てはエキスパートとしての蘊蓄を傾けられ、その計畫による兵庫突堤の分は昨年十一月完成、中突堤は十年完成の豫定となつてゐる。又神戸市工場地帯の狹隘を痛感して苅藻島の埋立並に運河の開設を計り之を竣成せしめ神戸港賑

興調査會を設けて同港の貿易並に産業の開發を期し、將來同港東部海面40萬坪、西部駒ヶ林河岸10萬坪の埋立計畫を樹てられてゐた。尙港灣關係の著書には『最近歐米港灣の概況』『自由港に就て』『神戸港の將來』『神戸港振興策』『港灣問題所見』等がある。

博士は又都市計畫事業其他道路河川等の各種土木事業にも深き造詣を有せられ、神戸市背部山丘地域の開發利用に力を注ぎ觀光遊覽施設を完成して同市の繁榮を誘致し、郊外電車市内乗入の大問題を圓滿に解決され、路面鋪裝、河川改修、下水道の完備等には特に努力されてゐた。(一記者)